





特  
へ13  
3223  
12

春法每

し  
し  
の

し  
し  
の

二  
の  
上

京山作

豊国画

弘化五年春

山人  
因磨包



榮文  
堂版



豊国画



福

京山作



京山作

春秋左氏傳といふ世教の書物あり此書善人を奉  
 て善を勸め悪人を載て悪を懲りて悪人も載されば悪の  
 悪を知るべく善人もまこと然り善悪ありて善悪を  
 知らぬれば見曹のあぐさ州るはよろる稗史も  
 悪人を載て悪人の終の凶窮とあり善人を奉  
 善人の末の幸福とありむあるひの事小準物小附  
 て教訓ぐまき事ともあるをりををつけて親玉の独  
 樂をまろ紙寫とあけかけたり玉らんよりの人のいと  
 めれまぢをもありあんなうのむまがまのあもよる  
 ありぬあり玉らん

弘化五年申春新板 山東庵



国麿

紫久堂梓



まづ北国美人を出せよあらん北方佳人あり  
 ともとの江河清潔なれば女は佳麗多し  
 と謝肇淩が五雜俎よりひも理  
 水の清き国の女はかるる色白布  
 の白も越後の白縮ふまると  
 あり其国北よりその地水清  
 まざるまざるちどの女は美人と  
 世の中よりなりこれふよりてけふ  
 さうしふのさうさう小よりとあり  
 この女と一のちふしとく  
 美人あり一事を一部の  
 趣向と則ち三美人をよふ  
 りて例の口繪のかり  
 とをあげける



三美人を田舎娘とけい説  
 小野の小町は出羽の郡司小野の良実の娘  
 楊貴妃は蜀州の司戸元玉の娘三浦屋の  
 遊女二代目万治のころは高尾下野の國  
 塩谷郡湯本の塩原村百姓長助の娘  
 夜光の珠も時を得て人間ふのづれは由来  
 天下に傳ふ美人もまさしく小町の小町  
 も出羽に枯果る小町燕脂の名を  
 のこさむ楊貴妃も蜀に花をちるる楊  
 貴妃様の色は賞せられや万治の言向尾  
 ると因ふある昏庸頑夫の妻とあり拙夫は  
 伴も眠るるふより系へうれさるる名妓の名を  
 のこせりこれ夜光の玉の世のめでるんは三美人と北  
 國の田舎むまるとり北の閉位るる陰を女は扇を





こゝろ  
かや  
あゆむ  
あひく  
ついで  
なま  
ちく  
ちき

四十二  
あひく  
のつと  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ

あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ

あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ

あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ

あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ



あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ

あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ

あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ

あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ

あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ

あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ

三

あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ

二

あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ



くわし...  
くわし...  
くわし...

あつち...  
あつち...  
あつち...

か...  
か...  
か...

あつち

けり



か

あつち

けり

あつち...  
あつち...  
あつち...

あつち...  
あつち...  
あつち...

あ



又かあがりしは...  
 田舎の...  
 つまど...  
 ど押...  
 あ...  
 ま...  
 〇か...  
 ね...  
 を...  
 む...  
 〇か...  
 ね...  
 を...  
 〇か...  
 ね...  
 を...



〇か...  
 あ...  
 〇か...  
 あ...  
 〇か...  
 あ...  
 〇か...  
 あ...  
 〇か...  
 あ...  
 〇か...  
 あ...

五

五

さあ...  
 さ...  
 た...  
 う...  
 〇か...  
 ね...  
 を...  
 〇か...  
 ね...  
 を...  
 〇か...  
 ね...  
 を...  
 〇か...  
 ね...  
 を...



〇か...  
 あ...  
 〇か...  
 あ...  
 〇か...  
 あ...  
 〇か...  
 あ...  
 〇か...  
 あ...  
 〇か...  
 あ...  
 〇か...  
 あ...

五







小よちの母のうらなは  
 あつたふりやうと  
 小よちの母のうらなは  
 あつたふりやうと  
 小よちの母のうらなは  
 あつたふりやうと  
 小よちの母のうらなは  
 あつたふりやうと



小よちの母のうらなは  
 あつたふりやうと  
 小よちの母のうらなは  
 あつたふりやうと  
 小よちの母のうらなは  
 あつたふりやうと

小よちの母のうらなは  
 あつたふりやうと  
 小よちの母のうらなは  
 あつたふりやうと  
 小よちの母のうらなは  
 あつたふりやうと



小よちの母のうらなは  
 あつたふりやうと  
 小よちの母のうらなは  
 あつたふりやうと  
 小よちの母のうらなは  
 あつたふりやうと



大庄屋の山のもちで二つあるも  
 豆作もあつたといふこと  
 大庄屋の山のもちで二つあるも  
 豆作もあつたといふこと  
 大庄屋の山のもちで二つあるも  
 豆作もあつたといふこと



大庄屋の山のもちで二つあるも  
 豆作もあつたといふこと  
 大庄屋の山のもちで二つあるも  
 豆作もあつたといふこと

孫作がさういふ話のまじり作のあつて  
 あつてさういふ話のまじり作のあつて  
 あつてさういふ話のまじり作のあつて  
 あつてさういふ話のまじり作のあつて



小十郎のまじり作のあつて  
 豆作もあつたといふこと  
 小十郎のまじり作のあつて  
 豆作もあつたといふこと

△あてがちぐんともあることなまも  
るいもあちういあけていそまね  
くもあちういあけていそまね  
くもあちういあけていそまね  
くもあちういあけていそまね

△江戸京を二丁目京だんま  
△そくあちういあけていそまね  
△そくあちういあけていそまね  
△そくあちういあけていそまね  
△そくあちういあけていそまね



△あちういあけていそまね  
△あちういあけていそまね  
△あちういあけていそまね  
△あちういあけていそまね  
△あちういあけていそまね

男大おんゆいさのあし丹  
ねのゆく一丈五女おし文二女  
五下男のからおし文二女  
せいのあちういあけていそまね  
せいのあちういあけていそまね  
せいのあちういあけていそまね



△あちういあけていそまね  
△あちういあけていそまね  
△あちういあけていそまね  
△あちういあけていそまね  
△あちういあけていそまね

第六巻

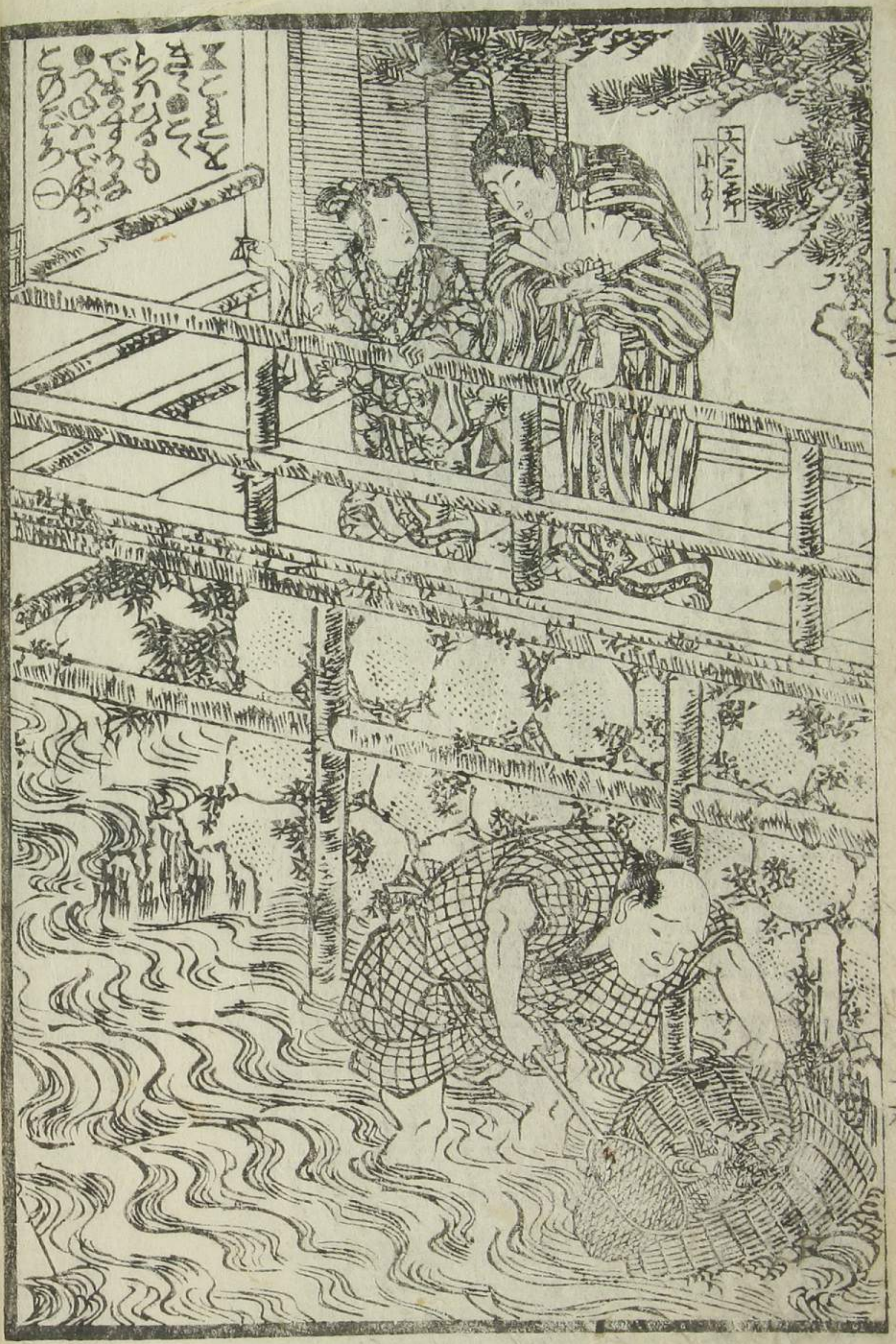
その夜城











① 河津の  
 女は  
 水遊び  
 するも  
 ② 河津の  
 女は  
 水遊び  
 するも

火の用心

① 火の用心  
 火の用心



① 火の用心  
 火の用心

① 火の用心  
 火の用心





さういふ人がある  
 せうしやうかとの  
 べりつやあつた  
 百世のうら  
 むのまの  
 るのまの  
 竹のそらの  
 女房かか  
 母さん  
 さんか  
 のい  
 たのい  
 角へま  
 人のま  
 のい  
 八つ  
 あつた  
 まうで



ひまの  
えん太

小千

さういふ人がある  
 せうしやうかとの  
 べりつやあつた  
 百世のうら  
 むのまの  
 るのまの  
 竹のそらの  
 女房かか  
 母さん  
 さんか  
 のい  
 たのい  
 角へま  
 人のま  
 のい  
 八つ  
 あつた  
 まうで



ひまの  
えん太  
 小千  
 さういふ人がある  
 せうしやうかとの  
 べりつやあつた  
 百世のうら  
 むのまの  
 るのまの  
 竹のそらの  
 女房かか  
 母さん  
 さんか  
 のい  
 たのい  
 角へま  
 人のま  
 のい  
 八つ  
 あつた  
 まうで

豊國画の京山作



又そのころ月もは  
のそたかやとこれ  
さうそとととと  
たるとまのそと  
かえそととと  
人けととと  
まればたのそと  
けそとととと  
りてそととと  
たるとそとと  
るたそとと  
そとととと  
たるとそとと  
たるとそとと  
たるとそとと

二これあまの名のあとのそと  
まらるととととと  
まらるととととと  
まらるととととと  
まらるととととと  
まらるととととと  
まらるととととと  
まらるととととと

と二へんとのり

のり  
かえり

小よのり

作者  
のり  
かえり  
まらるととととと  
まらるととととと  
まらるととととと

邯鄲諸國物語

初編八編迄柴柳亭種彦作  
九編十編新刻一陽齋豊國画

菊壽童霞の盃

山東庵京山作  
一陽齋豊國画  
新刻

仙女香七變化粧

十返舎後一九作  
一陽齋豊國画  
二編

朧月猫のこけし

山東庵京山作  
一陽齋國芳画  
七編  
六編

竹女一代記

玉蘭齋作  
哥川貞秀画  
四編

妻のよしの紙

山東庵京山作  
一陽齋豊國画  
初編  
二編  
新刻

隅田川月姿見

式亭小三馬作  
一陽齋豊國画  
三編

美艶仙女香  
黒油美玄香  
坂外氏製

灸榮久堂

江戸新親仁橋角  
山本平吉版





